

## ●医学部附属病院の財務内容など

附属病院の収益構造を見ると、附属病院収益が約240億円で附属病院の業務収益(約348億円)の約69.1%を占めており、附属病院収入の増収が今後の病院経営における重要な課題となっています。

平成17年度においては、患者数が前年度に比べ入院で約0.8%減少しましたが、外来で約2.8%増えていることなどから、収入が約4.9%増えています。高度医療の提供として今まで入院でしか行えなかった化学療法による“がん”治療を外来で行える診療体制を構築したこと及び入院治療期間の短縮を図ったこと等が主な要因です。

企業会計でいう損益としては、約14億円の経常利益計上となっていますが、これは業務収益全体の約4%にあたります。

年度当初の医薬品及び診療材料(たな卸対象品)は約6.7億円でしたが、期末においては約5.6億円と約1.1億円を削減しており、医薬品及び診療材料の管理の効率化を図りました。また病院収益に対する比率は約2.3%となっています。

## ●患者アメニティ(快適環境)の改善

医学部附属病院では、患者サービスの観点から患者アメニティの改善等に取り組んでいます。

平成17年度では、入院環境等の改善のため、南西病棟及び西病棟の改修、コーヒーショップ及び旅行センターの新設を行いました。

また、慢性的な駐車場不足を解消するため、新たに外来駐車場及び駐輪場の増設を行いました。

さらに、会計窓口での待ち時間短縮及び盗難防止等のため、クレジットカード、デビットカードによる支払を導入しました。

## 患者数

(単位:人)

区分	16年度	17年度	伸び率
入院	364,929	361,860	△0.8%
外来	571,895	587,868	2.8%
計	936,824	949,728	1.4%

## 附属病院収入

(単位:百万円)

区分	16年度	17年度	伸び率
附属病院収入	22,778	23,886	4.9%

## 業務費用・業務収益

(単位:百万円)

区分	附属病院	割合
業務費	31,758	95.0%
一般管理費	274	0.8%
その他	1,408	4.2%
業務費用(計)	33,440	
運営費交付金収益	7,903	22.7%
附属病院収益	24,090	69.1%
外部資金	1,923	5.5%
その他	932	2.7%
業務収益(計)	34,848	
業務損益*	1,408	4.0%

※業務損益：業務収益と業務費用の差額

## 医薬品及び診療材料比率

2.3%

=医薬品及び診療材料(560百万円) /

附属病院収益(24,090百万円)

(H17 全国立大学法人平均2.1%、大規模7大学平均2.2%)

## ●先端医療及び社会貢献の推進

医学部附属病院においては、標準的な治療の施行のみでなく、先端医療<sup>\*1</sup>の推進も重要な使命であり、探索医療センター<sup>\*2</sup>などと協力し、たとえ採算が見込めなくても新規治療の開発に多大な研究資源を投入しています。

また、保険適応には馴染みませんが、必要とされる診療にかかる治療費の一部を負担<sup>\*3</sup>するなど、みなさまの健康維持に貢献しています。

さらに、医師や医療従事者の卒後研修にも投資し、将来の日本の医療レベル向上<sup>\*4</sup>に尽力しています。

※1 平成17年度において、前年度から引き続き高度な先端医療（膵島移植・肝移植・肺移植等）を行っています。

※2 院内に設置されている「探索医療センター」においては、固定プロジェクトによる“ポストゲノムプロジェクト”や、全国公募・任期制による流動プロジェクトを実施しており、基礎研究成果を用いた新医療の開発を行っています。特に平成17年度に国内初の医師主導の新薬治験を開始したところ です。

※3 教育研究上きわめて有意義と判断される場合や先端医療に対して、診療に要した経費の全部又は一部を本院が負担する経費として、平成17年度においては5,600万円を計上しました。

※4 医師等の養成に関しましては、医学研究科・医学部を中心とする卒前教育に加え、平成17年4月に設置された総合臨床教育・研修センターを中心とする医師・薬剤師・看護師・メディカル等の卒後教育を推進しています。

## 高度な先端的医療

(単位:件)

区 分	平成17年度までの実績
膵島移植	17
肝 移 植	1,175
肺 移 植	8

## ●寄附による新病棟の建設

山内溥氏(任天堂(株)相談役)から70億円(平成17・18年度)の寄附を受け、附属病院の新病棟を建設することになりました。附属病院の病棟を民間からの寄附で建設することは、国立大学法人にとって初めてのことです。

附属病院は平成11年に外来診療棟が新設されましたが、病棟に関しては一部老朽化や分散という問題があり、新病棟の整備とともに病棟の一元化を図る構想を検討していました。

この度、山内溥氏からの寄附を受けて建設する新病棟は、この構想実現の第一歩として患者アメニティ(快適環境)を重視した高度先進医療・最先端医療を実践するための適切な環境を提供するものであり、“がん”を中心とした先端医療病棟として平成21年度の完成を予定しています。

新病棟(イメージ図)

